

「ひめゆり」アニメ・プロジェクト

アニメ原画作者の募集

あなたの絵の力を貸してください

沖縄のひめゆり平和祈念資料館では、沖縄戦で亡くなっていった女生徒たちの体験や思いを、小学生にも理解できるように、短編アニメーション作品の製作を計画しています。

できあがった作品は、ひめゆり平和祈念資料館の中で上映します。

あの戦争を生きのびた生存者たちが体験を語れなくなった後も、未永く上映したい。20年、30年経っても古くならないような作品を作りたいと思っています。

そこで、皆さんの力をお借りしたいのです。

作品のベースとなるイメージ絵を募集します。応募いただいた絵の中から、一枚あるいは数点の作品を選び、アニメ作品に発展させていきたいと思っています。

つまり「原画作者」「キャラクター作者」「背景作者」となりうる人を探し出したいと思っていますのです。

あなた自身がアニメーターである必要はありません。しっかりとした一枚絵が描ければ、それを別のプロの手によって動かしていくことは可能です。

別紙に、作品の核となるシーンの例を挙げてみます。

どれかひとつ、あるいは複数のシーンを選び、絵にして応募していただだけませんか。

あるいは、例にとらわれず、自らのストーリー構想とともに作品をお送りいただいても大歓迎です。

なお、アニメ作品の原画として採用されなかった場合も、審査を通して、ひめゆり平和祈念資料館内に作品を企画展示させていただくことを計画しています。

ふるってご応募ください。

ひめゆり平和祈念資料館 アニメ・プロジェクト

次の中から、どれかひとつ、あるいは複数のシーンを選び、絵にして応募してください。

あるいは、下記の例にとらわれず、自由にストーリー構想を練り、自らのイメージ絵を描いていただいても結構です。

戦前の学園生活

A. スポーツと少女たち

1. 弓道部で全国大会に出場した A さん
2. 軟式テニス部で一人壁打ちをしながら練習に励む下級生の B さん
3. 夜の寮で大騒ぎし、厳しい先生に「運動場 10 周」を命じられた生徒たち

B. 教室での少女たち

1. ラケットをギターがわりに歌う C さん、周りにはいつも笑いがあった。
2. 教室の片隅でいつもひっそり読書にふける D さん、愛読書は「アンナ・カレーニナ」、「ゲーテ詩集」などだった。

C. ピアノの上手な E 先生

細身でいつも元気がなさそうな歩き方をする E 先生だが、ピアノを弾くときは、ものすごい迫力。戦場に動員される前夕、よるよるのジャケットを着ながら、生徒 2 人とともに夕暮れまで「月光」を弾き続けた。

D. 反骨の授業を行った F 先生

黒板に「精神」と「物量」という二文字を大きく書き、生徒たちに「どちらが勝つと思うか」とたずねる F 先生。生徒たちは口々に「精神だ」と答えると、「いや、物量にはかなわない」と答えた。

E. 制服の変化

最初はセーラー服だった制服も、戦争が深まるにつれ、全国統一のヘチマ襟へと変化した。さらに師範学校女子部では着物形式の標準服となった。セーラー服にあこがれていた生徒たちはがっかり。

F. 寮生活 ~ 美人投票

多くの生徒が寮に入っていた。1 年生が入寮すると、どの部屋でもまず「美人投票」が行われた。必ず、新入生のうちの誰かが選ばれるようになっていた。選ばれた 1 年生に、先輩たちは「さあ、美人に選ばれたんだから、記念に皆にお菓子をおごって」と催促。新入生にとってはドキドキだが、こんなひとコマが、後には深い思い出となって残る、伝統の「入寮の儀式」だった。

戦争を知らない人は、戦争に向かっていくときは街に軍歌が鳴り響き、みんなが日本の勝利をひたすら祈っているような異常な状況になると思いがちですが、ひめゆりの少女たちの経験では、ありふれた日常の中で進行し、戦争へと突入していったことを表現したいのです。

戦場へ

G. 負傷兵がひしめく壕の中で「私の人間性って何？」と自問する少女

壕の中には、たくさんの負傷兵が横たわっている。その片隅では、手足切断の手術が、カーバイトランプをたよりに行われていた。切断された足を捨ててくるように命じられた E。重たい足を持ちながら、ふと立ち止まる。「私って、血も涙も感じない人間になってしまった」と。

H. 洞窟の中での姉妹の別れ

戦場ではさまざまな別れがあった。一組の姉妹がいた。姉は負傷し、動けないため、壕の奥に寝かされている。持ってきていた小説を、ろうそくの光をたよりに読んでいる。このまま壕に居続けることは、せまってくる敵に殺されることを意味する。妹は「姉さんだけ残していくわけにはいかない」と傍にたたずむが、負傷した姉は本を読みながら「行きなさい」という。

I. 青い海のひろがるゴツゴツとした珊瑚礁の海岸

陸からは火炎放射を吐く戦車が迫ってくる。海には軍艦が群れている。友達と抱き合いながら「怪我をして苦しむより、砲弾一発で吹っ飛ぶといいな」と祈る少女たち。手榴弾で自決をすることを選んだ生徒たちもいる。

J. 満月の海岸 絶望した少女たちは口々に叫ぶ。

「もう一度青い空の下を大手を振って歩きたい」
「お母さんに会ってから死にたい」

戦後

K. 賑やかな大通り。自動車を運転する年老いた女性

平和な街で楽しげに暮らす人たちを運転しながら、ふと見る。ここは 60 年前には、仲良しだった Y と一緒に歩いた道だ。彼女の目には、いつも亡くなった Y の姿が見えている。運転しながら Y に「きょうはこんなことがあったよ」と語りかける。

L. 行方不明の少女たちはどこへ行ってしまったのだろうか。

戦場で別れたまま、いまだに行方不明になっている少女たちはたくさんいる。彼女たちはどこへ行ってしまったのだろうか？ どんな最後をとげたのだろうか？ 60 年以上たっても、風景を見るたびにそう思う。天国へ行ってきていたらなあと祈らざるをえない。

注意点

現段階では、リアリティーにはこだわらなくて結構です。

作品の宇宙観や世界観を表す絵、あるいは背景はなくとも魅力的なキャラクターが描かれているだけでもよいです。

クレアアニメなどの手法でもかまいません。

もちろん、リアリティーにこだわっても結構です。

既存のアニメーションにとらわれず、どうか自由な発想でイメージを寄せてください。

応募要領

* 応募期間 : 2008年1月～2008年6月末日(当日消印有効)

* 応募先

〒901-0344 沖縄県糸満市字伊原 671-1

TEL 098-997-2100

ひめゆり平和祈念資料館 アニメ・プロジェクト宛

* 送付してほしいもの、内容

1. イメージ画 (画材、サイズは自由です)

2. どのシーンを選んだか、そして、その絵についてのあなたの考えを伝える文章を添えてください。

自由な構想で描いた場合、あなたの構成展開構想を書いてください。

3. あなたの連絡先(名前、住所、電話番号、メールアドレスなど、こちらから連絡が取れる連絡先)

* 問合せ先 : boshu@himeyuri.info

* 募集の結果は、期間終了後にメールあるいは文書でお伝えします。

なお、審査にあたっては、以下の方々にも審査員として加わっていただきます。

丸山正雄(マッドハウス創業者、『はだしのゲン』『時をかける少女』『パブリカ』他)

平田敏夫(アニメ監督)

又吉 浩(沖縄県立芸術大学講師、アニメーション作家)

柴田昌平(ドキュメンタリー映画「ひめゆり」監督)

(注1) お寄せいただいた絵をもとにアニメーション作品を作成することになった場合は、作者等のクレジット表記をするほか、製作スタッフの一員として参加いただくことも検討させていただきます。

(注2) お寄せいただいた絵は返却いたしません。お送りいただくのは、原版でも結構ですし、コピーでも構いません。ただし、資料館で企画展示をすることになった場合、後日、原画を送っていただきます。

参考資料

「ひめゆり平和祈念資料館 ガイドブック」(ひめゆり平和祈念資料館発行)

「墓碑銘」(ひめゆり平和祈念資料館発行)

「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」(角川文庫)

については、資料館に電話かメールでお申し込みいただければ
ご購入いただけます。

インターネット上の以下のページもご参照ください。

<http://www.himeyuri.or.jp> (ひめゆり平和祈念資料館公式ホームページ)